



室戸ユネスコ世界ジオパーク年報

2015（平成27）年度



室戸ジオパーク推進協議会



ごあいさつ

平成27年度は、室戸世界ジオパークセンターの開館をかわきりに、「高知家まるごと東部博」の開催、世界ジオパークネットワークの再審査そして結果発表など、一つの区切りとなるような大きなイベントが続いた1年となりました。

そしてジオパーク活動は、『第2期室戸ジオパーク実行計画(平成25年度から27年度)』に基づき、ガイド育成講座やジオマスター講座、ジオパーク井戸端会議などを実施して人材育成の推進とともに、ジオツアーや自然体験プログラムの開発などの取組みを推進することが出来ました。また、これらの活動によって、室戸世界ジオパークセンターは、年間10万人以上の来館者を迎えるとともに、ガイド者数も約1万人を数えるなど交流人口の拡大に大きな成果があったのではないかと考えております。このことは、室戸ジオパーク推進協議会の会員をはじめ、多くの市民の皆さんと協力して推進してきた結果であると深く感謝をしております。

平成28年度からは、新たに策定しました『第3期室戸ジオパーク実行計画』に基づきジオパーク活動を推進してまいります。これまでご指摘いただきました課題をもとに、ジオサイトの見直しや体験プログラムの開発と実施などを進めてまいります。また、国際的にもジオパーク間の姉妹提携や開発に向けた支援活動など、世界ジオパークの一員としてグローバルな視点をもった取組みも推進していきたいと考えております。

今回、平成27年度の室戸ジオパーク推進協議会活動について年報としてまとめたところであります。今後ともジオパーク活動に対し一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

平成28年3月31日

室戸ジオパーク推進協議会長 小松幹侍

もくじ

もくじ	2
2015（平成 27）年度 室戸世界ジオパークの動き	3
2015（平成 27）年度の活動実績	7
世界ジオパークネットワーク加盟再審査	25
ジオパークいどばた会議（ジオばた会議）の開催	29
平成 27（2015）年度会計報告	33
2015 年度個別業務報告	39
付録 室戸ユネスコ世界ジオパークの概要	50

2015（平成 27）年度 室戸世界ジオパークの動き

2015 年 4 月 29 日に室戸世界ジオパークセンター（図 1）が室戸岬町に開館し、それに先だって室戸ジオパーク推進協議会事務局および室戸市ジオパーク推進課がジオパークセンター2階に移転した。ジオパークセンターでは、室戸ジオパークの「大地のなりたち」「人のいとなみ」「大地と人の共生」についての常設展示があるほか、インフォメーションカウンター、ジオシアターなどを備えている。また、室戸ジオパーク内の産物を主にあつかうジオショップ・ジオカフェ、室戸市観光協会、室戸市観光ガイドの会の事務局が館内1階に、高知大学サテライトラボ（サテライト教室）が2階にあり、室戸ジオパークに関する管理・研究・教育機能が集約されている。室戸世界ジオパークセンターの入館者数は、2015 年 8 月 28 日に 50,000 人を、2016 年 3 月 19 日に 100,000 人を突破した。



室戸世界ジオパークセンター外観



展示室



インフォメーション・カウンター



ジオショップ・ジオカフェ

図 1 室戸世界ジオパークセンター

2015 年 4 月 29 日から 12 月 23 日まで、「高知家まると東部博」（以下、「東部博」）が開催された（主催・高知県東部地域博覧会推進協議会）。東部博は、高知県の支援のもと高知県東部の 9 市町村にまたがる広域観光を活性化させるための事業であるが、室戸世界ジオパークセンターが、北川村「モネの庭」および安芸市立歴史民俗資料館とともにパビリオンのひとつとして利用されることとなった。室戸世界ジオパークセンターでおこなわれた東部博のイベントとしては、「Tony Wu 海洋生物写真展」（4 月 29 日～5 月 31 日）、「海洋堂フィギュアで見る まがり博士と秘密の海」（6 月 28 日～10 月 25 日）、「天然写真家 前

田博史写真展」(11月21日～12月23日)を開催した。「まがり博士と秘密の海」については、展示のみでなく、海洋堂フィギュアへの色つけ体験、ジオラマ作りワークショップなども同時開催された(図2)。また、室戸ジオパーク推進協議会主催の東部博体験プログラムとして、「生き物ウォッチング!」「サイクリング探索」「自然体験(磯遊び・生き物観察)」の運営を開始した。「生き物ウォッチング!」と「自然体験」(図3)、「サイクリング探索」は参加者を随時募集し、東部博終了後も継続して実施することとなった。



図2 ジオラマ作りおよびフィギュア色つけワークショップの様子



図3 東部博体験プログラムの様子

(左) 自然体験(磯遊び)、(右)「生き物ウォッチング!」コウモリトラップの設置

2015年度は、実行計画(三カ年計画)の最終年度に当たっており、次期実行計画の策定の年でもある。そこで、2016年1月には、「ジオパーク井戸端会議(ジオばた会議)」を実施(29ページ参照)し、広く市民の意見を集めた。また、1月～3月にかけて計3回の「次期実行計画策定会」をおこなった(図4)。この策定会も、室戸ジオパーク推進協議会会員だけでなく、広く一般市民の参加を募り、地域住民参加型の会議をおこなった。



図 4 次期実行計画策定会の様子（3月23日 市役所会議室）

そのほか、2015年度には世界ジオパークネットワークによる加盟再認定審査（P.22以降参照）がおこなわれた。また、室戸ジオパークマスター講座、室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座など、多数の講演会、イベントをおこなった。詳細は以下を参考にされたい。

2015年度 イベントカレンダー

2015年

- 4月1日（水） 室戸ジオパーク推進協議会事務局、室戸市ジオパーク推進課が室戸世界ジオパークセンター内事務所に移転。
- 4月29日（水・祝） 「室戸世界ジオパークセンター」オープン。オープニングイベントおよび「高知家まるごと東部博」開幕記念イベント
- 4月29日（水・祝）～5月31日（日）「Tony Wu 海洋生物写真展」（4/29に講演会）
- 5月9日（土） 室戸ジオパークトライアスロン（主催：室戸ジオパークトライアスロン実行委員会）
- 6月5日（金）～11日（月） 企画展：蝶（ちょう）標本展示および長崎志津男氏講演会「旅する蝶」（6月7日）（主催：むろとの日実行委員会）
- 6月6日（土） 環境美化活動・室戸岬サイト（雨天決行）・新村遊歩道（雨天中止）
- 6月28日（日）～10月25日（日）企画展「海洋堂フィギュアで見る まがり博士と秘密の海」およびフィギュア色つけ体験&ジオラマワークショップ
- 6月27日（金） 室戸ジオパークマスター講座2015開始（～2016年3月）
- 7月14日（火）～16日（木） 世界ジオパークネットワーク（GGN）再審査現地審査 GGN審査員：ニコラス・ゾウロス教授（GGN協会会長、ギリシャ・レスボスジオパーク）、アンチェル・ベルモンテ博士（スペイン・ソブラルベジオパーク）

- 9月19日（土） 第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（9月15日～19日、豊岡市および鳥取市）のフェアウェルパーティ（会場：鳥取環境大学）において室戸ジオパークの世界ジオパークネットワークへの加盟再認定発表。室戸世界ジオパークセンターにて再認定結果発表イベント
- 10月31日（土）～11月1日（日）むろとまるごと産業まつり（主催：むろとまるごと産業まつり実行委員会）会場：海の駅とろむ、室戸世界ジオパークセンター、室戸岬灯台
- 11月3日～18日 第38回ユネスコ総会、世界ジオパークのユネスコの正式事業化決定。
室戸ジオパークは「室戸ユネスコ世界ジオパーク (Muroto UNESCO Global Geopark)」に
- 11月21日（土）～12月23日（水・祝）「天然写真家 前田博史写真展」 会場：室戸世界ジオパークセンター2階フリースペース

2016年

- 1月12日、13日、15日、18日、19日、21日、22日 室戸ジオパークいどばた会議
- 1月26日（火） 次期実行計画策定会（1）
- 1月23日～24日、2月20日～21日、3月12日～13日 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座
- 3月2日（水） 次期実行計画策定会（2）
- 3月23日（水） 次期実行計画策定会（3）

2015（平成 27）年度の活動実績

1. GGN・APGN・JGN・学会関係

平成 27 年度は、7 月に GGN 再認定現地審査があり、現地審査員 2 人への活動報告、意見交換等をおこなった。また、9 月に山陰海岸で開催された第 4 回 APGN 山陰海岸シンポジウムに参加・発表したほか、霧島で開催された第 6 回日本ジオパーク全国大会や、JGN 主催の全国研修会等にも参加し、積極的にネットワーク活動に取り組んだ。

今年度は専門員・事務局員以外による会議出席がおこなわれなかったため、今後は室戸市内のジオガイドや中・高校生、地域住民も会議・ネットワーク活動への参加の機会をつくっていききたい。また、今後は現地審査員の派遣やジオパークの少ないユネスコ加盟国への支援等、ネットワークへの貢献が求められているので、それらに対応していけるよう努めたい。

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月 21 日	2015 年度 JGN 第 1 回理事会(東京)	
平成 27 年 5 月 22 日	第 6 回 JGN 全国研修会(APGN 共催：東京)	新たにジオパークで働き始めた人を対象とした研修会で、ジオパークの意義や、ジオパークでの研究活動、ジオパークによる地域振興などについての講演を聴講し、意見交換をおこなった。
平成 27 年 5 月 24 日	日本地球惑星科学連合 2015 年大会での講演(千葉)	パブリックセッション(ジオパークにこう)にて口頭講演「室戸ジオパークで体感する大地との付き合い方」
平成 27 年 5 月 25 日	2015 年度 JGN 通常総会(東京)	
平成 27 年 7 月 2 日～3 日	第 7 回 JGN 全国研修会(白滝)	「ジオ遺産」についての基調講演(目代邦康氏)を聴講した後、国立公園とジオパークの関係についてのワークショップ(意見交換)に参加した。また、白滝ジオパークのジオサイト視察をおこなった。
平成 27 年 7 月 14 日～16 日	GGN 再認定現地審査	ニコラス・ゾウロス教授、アンチェル・ベルモンテ博士による現地審査を受け、4 年間の活動を協議会会員や室戸高校生などがおこなった。

平成 27 年 7 月 31 日	国際第四紀学連合(INQUA)第 19 回大会(名古屋)	巨大地震と津波、大規模地すべり、海岸地域における自然災害といったテーマについての会議に参加し、情報交換をおこなった。
平成 27 年 8 月 21 日～22 日	日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロックキャンペーン(大阪)	近畿地方の旅行者に対してジオパーク活動についてのプレゼンテーションをおこなうとともに、一般市民に対して室戸ジオパークの魅力をアピールした (図 5)
平成 27 年 9 月 14 日	GGN NEWSLETTER 2015 ISSUE 1 への記事掲載	The Muroto Global Geopark Center opened in April 2015
平成 27 年 9 月 16 日～20 日	第 4 回 APGN 山陰海岸シンポジウム	・前日に開催された CC ミーティングでは、議案が直前に届いたため何も決定はされず、今後は早めに議案を共有することなどが確認された。 ・古澤専門員が体験プログラムの導入について口頭発表、白井専門員が教育について、中村専門員が生き物調査と GIS の活用についてポスター発表 ・ジオパークフェアでは、ブース出展し、4 か国語のみうら折りマップ等を配布した。
平成 27 年 9 月 20 日	ランカウィ世界ジオパークとの意見交換・協定に向けた打ち合わせ	ランカウィ世界ジオパークの CEO、事務局員 4 名、通訳 1 名と室戸ジオパーク推進協議会会長、事務局長、専門員 2 名との間で今後の交流と協定について意見交換をおこなった。
平成 27 年 10 月 27 日～10 月 29 日	第 6 回日本ジオパーク全国大会霧島大会	ジオパーク活動についての情報収集および分科会への参加。霧島ジオパークの視察。
平成 27 年 11 月 7 日～11 月 10 日	日本ジオパーク再認定現地審査への職員派遣	専門員による対応「下仁田ジオパーク」
平成 27 年 11 月 30 日	JGN事務局長会議(東京)	
平成 28 年 1 月 23 日～1 月 24 日	ユネスコジオパーク誕生記念フォーラム(白山)	

平成 28 年 2 月 2 日	ユネスコ正式事業化決定記念キャンペーン(東京)	室戸ジオパークの活動についてプレゼンテーション、ブース出展(図 6)
平成 28 年 2 月 14 日～2 月 15 日	ユネスコ正式事業化決定記念シンポジウム(鳥取)	
平成 28 年 2 月 19 日	JGN事務局長会議(東京)	



図 5 日本ジオパークネットワーク中
四国近畿ブロックキャンペーン
(大阪、なんばウォーク)



図 6 ユネスコ正式事業化決定
記念キャンペーンでの
知事あいさつ(東京都千代
田区、東京国際フォーラ

2-1. 推進協議会の会議

6 月に総会を開催するとともに、役員会を年 4 回開催し、室戸ジオパーク実行計画の進捗状況や GGN 再審査について、報告等をおこなった。また、2016 年度からの実行計画を策定するため、策定会を 3 回開催して協議をおこなった。

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月 23 日	第 1 回役員会	H26 活動実績と収支決算、H27 事業計画と予算、実行計画を協議、議決 GGN 再審査報告など

平成 27 年 6 月 1 日	第2回役員会	役員の選任について協議
平成 27 年 6 月 1 日	総会	役員の選任、H26 活動実績と収支決算、 H27 事業計画と予算、実行計画を協議、 議決 GGN 再審査報告など
平成 27 年 10 月 7 日	第3回役員会	室戸ジオパーク実行計画＜2014 年度事業計画＞における進捗状況、補正予算、GGN 再認定など報告
平成 27 年 12 月 25 日	第4回役員会	室戸世界ジオパークセンター駐車場遊休地の活用を協議
平成 28 年 1 月 26 日	次期実行計画策定会(1)	室戸世界ジオパークの第3期実行計画策定に向けた協議
平成 28 年 3 月 2 日	次期実行計画策定会(2)	
平成 28 年 3 月 23 日	次期実行計画策定会(3)	

2-2. 実行計画推進チーム会の会議

ジオツーリズム推進チームの会議を 3 回実施し、ジオツアーの実施に向け、コースづくりやPR方法等の検討をおこなった。その結果、2015 年 7～8 月には「灼熱の台地を歩こう」(西山台地)、「港の上を歩く」(室津港)、「ナイトツアー」(室戸岬灯台付近および室戸岬海岸周辺)などのジオツアーを広報した。また、11～12 月にも「まんぷくツアー～海に見える台地で秋の農業体験～」(西山台地)、「港町散策ツアー～「港の上」を歩く～」、「ナイトツアー(ふたご座流星群を見よう)」を広報した。

また、ジオパーク活動の重点項目である、「運営」、「ネットワーク」、「教育・保護・防災」、「ジオツーリズム」のチームごとに活動内容等について意見交換や取組内容を検討する推進チーム全体会を 2 回開催した。

なお、GGN 再審査(25 ページ以降を参照)において、室戸ジオパークの管理運営構造における 5 つの推進チームの位置づけがわかりにくい、チームの担当責任者を明確にすべきだ、との指摘がなされた。また、2015 年度において十分に活動できなかった推進チームもある。次年度以降は、これら推進チームの協議会における位置づけはもちろん、次期実行計画における役割などを含めて、改善していく必要がある。

日時	事業名	備考
平成 27 年 6 月 16 日	ジオツーリズム推進チーム会(20)	夏に実施するツアーについて協議

平成 27 年 6 月 30 日	第 3 回室戸ジオパーク活動推進チーム全体会	ジオパーク活動の重点項目（運営、ネットワーク、教育・保護・防災、ジオツーリズム）ごとのチームに分かれ、活動内容等について協議
平成 27 年 7 月～	教育推進チーム会	教育プログラムの開発
平成 27 年 7 月 24 日	ジオツーリズム推進チーム会(21)	夏のツアーについて、情報共有・実施体制の確認
平成 27 年 10 月 2 日	ジオツーリズム推進チーム会(22)	秋・冬のジオツアーについて協議
平成 27 年 11 月 27 日	第 4 回室戸ジオパーク活動推進チーム全体会	再審査での指摘事項の報告や今後の課題などについて協議

2－3．室戸ジオパークマスター講座の開催

平成 27 年 6 月から平成 28 年 3 月にかけて開催した「室戸ジオパークマスター講座 2015」は、ジオパーク活動に積極的に取り組む地域住民「室戸ジオパークマスター」を養成し、活動に必要な知識や技術の向上を目的とした。2011 年、2013 年に続き 3 回目の開催で、66 名の受講登録があった。今回のマスター講座は、ジオパークの基礎を学ぶ「基礎コース」と個々の活動内容や興味に合わせてより専門的な知識と技術を学ぶ「専門コース」の 2 つのコースからなる。「基礎コース」の講座として 6 講座を合計 13 回、「専門コース」の講座として 18 講座を開講した。専門コースの分野は初回講座で実施した受講者アンケートの結果をもとに設定し、科学などの学術的なものから芸術分野まで多岐に渡った。

本講座をきっかけとして、ガイド団体におけるインタープリテーションを重視した新しいプログラム開発や植物調査事業といった新たな活動が生まれた。今後は土産品などの商品開発やインターネットなどを効果的に活用した積極的な情報発信といった室戸ジオパークの課題に対して取り組む人材を育成していくことが課題である。

日時	事業名	備考
平成 27 年 6 月 27 日、7 月 25 日、8 月 2 日、9 月 8 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「説明会 & 初回講座」
平成 27 年 8 月 8 日、9 月 5 日、9 月 9 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「室戸の地理の話」
平成 27 年 9 月 5、13 日、12 月 10 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「室戸の地質の話」
平成 27 年 9 月 26 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「室戸阿南海岸国定公園について」 講師：室戸市生涯学習課・商工観光

		深層水課、室戸市観光ガイドの会
平成 27 年 10 月 3 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「吉良川の町並みについて」 講師： 室戸市生涯学習課、吉良川町並み 保存会
平成 27 年 10 月 8 日、11 月 14 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「地形図の読み方(基礎)」
平成 27 年 10 月 15 日、11 月 14 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「地形図の読み方(応用)」
平成 27 年 10 月 16 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(PR)	「ゼロから始める電子メールと SNS」
平成 27 年 11 月 18 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「岩石図鑑を作ろう」
平成 27 年 11 月 19 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(自然体験)	「インタープリテーション講座」 講 師:菊間 彰氏(よろず体験事務所 をかしや)
平成 27 年 11 月 19 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(自然体験)	「プログラムデザイン講座」 講師:菊 間 彰氏(よろず体験事務所 をかし や)
平成 27 年 11 月 28 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(芸術)	「プロに学ぼう！前田博史写真教室」 講師:前田博史氏(天然写真家)
平成 27 年 12 月 1 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「室戸の海底を覗く」 講師:岩井雅 夫氏(高知大学)
平成 27 年 12 月 2 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(ジオツーリズム)	「ジオガイドで稼ぐには」 講師:西谷 香奈氏(伊豆大島ジオパーク)
平成 27 年 12 月 12 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「海成段丘ツアー(野外講座)」
平成 27 年 12 月 13 日、14 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース	「室戸の星空案内人を目指そう！」 講師:河合準子氏(プラネタリウムプ ランナー)
平成 27 年 12 月 19 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(ジオツーリズム)	「ジオツーリズム開発のための現地 調査」
平成 27 年 12 月 27 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース	「ジオパーク、維持発展のキーを探る ～博物館から得られるヒント～」 講 師:殿谷 梓(北海道大学大学院)

平成 28 年 2 月 27 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(科学)	「植物の調査方法・絶滅危惧種の保護方法」 講師:前田綾子氏(高知県立牧野植物園)
平成 28 年 3 月 7 日、3 月 24 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 基礎コース	「ユネスコ正式事業となったジオパーク～新ガイドラインを読んでみよう～」
平成 28 年 3 月 17 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(ジオツーリズム)	「ジオツーリズム開発実習」
平成 28 年 3 月 17 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(防災)	「東日本大震災被災地の現状とこれから」
平成 28 年 3 月 19 日	室戸ジオパークマスター講座 2015 専門コース(芸術)	「音楽にみる、ストーリーの表現方法」

2-4. 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座の開催

平成 28 年 1 月から 3 月にかけて開催した「室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座」(図 7) は、「ユネスコ」冠するガイド養成講座として初めてのものであり、ジオガイド認定のための新たな体制作りへの第一歩として位置づけられる。今後(平成 28 年度以降)は、このガイド養成講座を受講し試験に合格すること、自然体験活動系の資格(NEAL リーダーなど)を取得すること、ガイド実績・サブガイド実績がそれぞれ 10 回以上あること、実技試験に合格すること、以上の条件を満たすものを「室戸ユネスコ世界ジオパーク認定ジオガイド」として認定する予定である。今回の講座には 31 人が受講登録し、17 人が修了条件を満たした。そのうち 8 人はこれまでガイド活動をおこなってこなかったものであり、今後のジオガイドとしての活躍が期待される。

今後も、年度ごとにガイド養成講座を継続するとともに、NEAL 資格取得の機会を適宜設けていくことが要求される。また、平成 27 年度は学生を初めとする若者の参加が少なかったもので、今後は大学生や高校生にも受講の機会を増やしていきたい。学生対象の広報活動や、学生が受講しやすい日程の調整は、今後の課題であろう。

日時	事業名	備考
平成 28 年 1 月 23 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座(1)	インタプリテーション 講師:菊間 彰氏 (よろず体験事務所 をかしや)
平成 28 年 1 月 24 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座(2)	室戸ジオパークの地質
平成 28 年 2 月 20 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座(3)	インタプリテーション 講師:菊間 彰氏 (よろず体験事務所 をかしや)
平成 28 年 2 月 21 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド	室戸ジオパークの地形、人々の暮らし

	養成講座 (4)	
平成 28 年 3 月 12 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド 養成講座 (5)	インタプリテーション 講師: 菊間 彰氏 (よろず体験事務所 をかしや)
平成 28 年 3 月 13 日	室戸ユネスコ世界ジオパークガイド 養成講座 (6)	ジオパークのしくみ、ジオストーリー、筆 記試験



図 7 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座の様子
(左) 室戸の地質を野外で学ぶ (右) 自然体験アクティビティの実習

3. ソフト整備

室戸ジオパーク推進協議会では、室戸ジオパークの魅力を発信するための 360 度動画を作成し、インターネットやスマートフォンアプリで発信できるソフトウェアの整備をおこなった。

日時	事業名	備考
平成 28 年 3 月	室戸ジオパークPR動画等制作業務	室戸ジオパークの魅力を発信するPR映像を 360 度全方位で動画化し、スマートフォンアプリ等において国内外に発信する

4-1. 普及啓発

高知コアセンター一日公開イベントや安芸広域キャンペーン「東部まるばくっ！」などのイベントにおいて、パンフレット等の配布を行うなど、室戸ユネスコ世界ジオパークのPR活動をおこなった。また、インバウンドフェアでは、東アジア・東南アジアの旅行業者にPRし、テレビや新聞でも報道された。南紀熊野ジオパークでの「よしくま祭り」にも招待され、ブース出展した。

今後は、アウトドア関連のイベントなどジオパークへの関心が集まりそうな催しにおいてもPR活動を展開したい。

日時	事業名	備考
平成 27 年 9 月 9 日	四国インバウンドフェア 2015 での PR	海外旅行会社との商談会
平成 27 年 10 月 17 日	土佐まるごと社中(TMS)第 18 回定例会(プレゼン大会)in 安芸での取組発表	室戸ジオパーク活動の取り組みについてプレゼン発表
平成 27 年 11 月 1 日～2 日	「こうちまんがフェスティバル」(高知市)での PR	PR ブースの設置、パンフレットの配布
平成 27 年 11 月 3 日	高知コアセンター1 日公開イベントでの PR	体験ブースの設置(フィギュア色付け体験)
平成 28 年 2 月 13 日～14 日	よしくま祭り(南紀熊野ジオパーク:白浜町)での PR	PR ブースの設置、パンフレットの配布
平成 28 年 3 月 12 日～13 日	安芸広域キャンペーンイベント「東部まるばくっ！」での PR	PR ブースの設置、パンフレットの配布

4-2. 講演会等 (JGN 関係以外)

ジオパーク関連以外の組織・団体が主催する講演会やイベントにも参加し、室戸ジオパークやジオパーク活動を通じての教育、研究、防災などについての普及、啓発活動をおこなった。

日時	事業名	備考
平成 27 年 7 月 4 日	「食のキャラバン in 室戸」講演	室戸の大地の成り立ちに関する講演
平成 27 年 9 月 2 日	室戸岬老人会シルバーセミナー講演	国際交流の業務についての紹介と体験プログラム「生き物ウォッチング！」について
平成 27 年 9 月 2 日	土佐清水市ガイド研修会	土佐清水のガイドの案内とガイド同士の意見交換会
平成 27 年 9 月 19 日	「ジオパーク防災キャンプ」講師	室戸岬における地球活動の体感
平成 27 年 10 月 10 日	高知大 CST 講師	講義・野外巡検対応
平成 27 年 10 月 11 日	「親子で考える防災デイキャンプ」(徳島県阿南市、YMCA 阿南国際海洋センター主催)講演	南海トラフで発生する地震・津波についての解説および防災学習
平成 27 年 10 月 17 日	「ジオ化石博士になろう」講師	
平成 27 年 11 月 22 日	自然体験活動指導者養成研修講師	ジオパーク活用事例紹介と野外巡検対応

平成 27 年 11 月 28 日	高知コアセンター講演会「高知から広げよう！地球の科学」	室戸ジオパークにおける科学教育への取り組みについて発表
平成 27 年 2 月 14 日	教員免許状更新講習講師	ジオパークを活用した学習に関する講義・野外活動対応
平成 27 年 12 月 23 日	東部博クロージングイベント「ここから大会議&なかじめ祭」	東部博で新たに開始した体験プログラムや期間中のお得きっぷの利点などについて室戸での取り組みや発見をパネルディスカッションで共有
平成 28 年 2 月 23 日	「AMAの国づくり観光会議」	インバウンドの課題や地域でつながることの大切さについてパネルディスカッションで発信
平成 28 年 3 月 8 日	三陸ジオパークガイド研修会講師（岩手県洋野町）	海成段丘の活用についての講演
平成 28 年 3 月 26 日	ほんもの体験フォーラム in 高知	地域活性化とジオパークについてのシンポジウム

5. イベント等

室戸ジオパーク推進協議会主催のイベントを開催するとともに、他団体主催のイベントにも参加し、室戸ジオパークの普及・啓発活動をおこなった。平成 28 年 1 月の「ジオばた会議」については、別項（29 ページ以降）を参照されたい。

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月 29 日	室戸世界ジオパークセンターオープニングイベント	無料ジオガイドツアーを実施
平成 27 年 6 月 28 日～10 月 25 日	室戸深海生物展 海洋堂フィギュアで見るまがり博士と秘密の海～ノーチラス号で深海探検～	室戸の深海生物をテーマにした企画展
平成 27 年 8 月 1 日～10 月 25 日間の設定日	海洋堂フィギュアへの色付け体験、ジオラマ作り体験	海洋堂フィギュアへの色付けやジオラマ作りの教室を開催
平成 27 年 7～8 月	夏休み自由研究教室	小・中学生を対象に自由研究の進め方についての講演を羽根、吉良川、室戸岬公民館、市立図書館、ジオパークセンター、佐喜浜生活改善センターにて各 1 回ずつ開催

平成 27 年 8 月・11 月・12 月	「ナイトツアー」 「港町散策～港の上を歩く～」	ジオツーリズム推進チームによる季節限定ツアー、合計 6 回実施
平成 27 年 8 月 29 日	室戸世界ジオパークセンター入館者 5 万人突破記念セレモニー	5 万人目の来館者に記念品贈呈
平成 27 年 9 月 6 日	お仕事体験イベント	小学生を対象にジオパークセンター内で案内ガイドやカフェ店員などの仕事を疑似体験するイベントを実施
平成 27 年 9 月 19 日	室戸世界ジオパーク再認定結果発表イベント	室戸世界ジオパークセンターにおいて、世界ジオパークの再認定結果発表に合わせ、乾杯やスーパーバンドのミニライブなどを実施
平成 27 年 10 月 25 日	「くろしお祭り」(国立室戸青少年自然の家)	津波実験装置を活用したブースを出展
平成 28 年 1 月 12 日	室戸ジオパークいどばた会議(1)	吉良川公民館
平成 28 年 1 月 13 日	室戸ジオパークいどばた会議(2)	羽根公民館
平成 28 年 1 月 15 日	室戸ジオパークいどばた会議(3)	中川内集会所
平成 28 年 1 月 18 日	室戸ジオパークいどばた会議(4)	室戸市役所
平成 28 年 1 月 19 日	室戸ジオパークいどばた会議(5)	室戸岬公民館
平成 28 年 1 月 20 日	室戸ジオパークいどばた会議(6)	室戸世界ジオパークセンター
平成 28 年 1 月 21 日	室戸ジオパークいどばた会議(7)	佐喜浜生活改善センター
平成 28 年 2 月 13 日・14 日	ホネホネサミット in 高知	高知大学朝倉キャンパス会場にブース出展
平成 28 年 3 月 5 日～6 日	海洋堂フィギュアへの色付け体験in吉良川町並みひなまつり	吉良川町並みひなまつりにて、海洋堂フィギュアへの色付け体験及びキーホルダーの作成体験実施
平成 28 年 3 月 19 日	室戸世界ジオパークセンター入館者 10 万人突破記念セレモニー	10 万人目の来館者に記念品贈呈

6-1. 新聞・雑誌等への掲載

広報については、高知家まると東部博の開幕に合わせてオープンした室戸世界ジオパークセンターの PR 活動をテレビや雑誌等で行うとともに、幅広く集客につなげるため、高知県観光ガイドブックや雑誌等で、県内外に室戸世界ジオパークの情報を発信した。

日時	媒体名	備考
平成 27 年 4 月 24 日	高知放送「こうち eye+」	室戸世界ジオパークセンターの紹介及びオープニングイベント PR

平成 27 年 4 月 27 日	テレビ高知「ほっと告知板」	室戸世界ジオパークセンターの紹介及びオープニングイベント PR
平成 27 年 5 月	雑誌「夏ぴあ関西版 2015」	室戸ジオパーク及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 5 月 16 日	FM 高知「土佐おもてなし勤王党ラジオ瓦版」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 6 月	FM 高知「中四国ネット ステーションらんでぶ〜」	室戸ジオパーク及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 6 月	雑誌「るるぶ四国'16」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 6 月 13 日	さんさんテレビ (BS フジ)「わがまま！気まま！旅気分」	高知家まると東部博 PR の中で、「室戸世界ジオパーク・サイクリング探索」の体験プログラムを紹介
平成 27 年 6 月 15 日	NHK ワールドプレミアム「四国えかこと旅」	室戸ジオパークを舞台にした特集
平成 27 年 6 月 27 日	テレビ高知「じゃらん！2モーニング」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 7 月	NEXCO 西日本情報誌「遊・悠・WesT」	室戸世界ジオパークセンターや企画展示を紹介
平成 27 年 7 月	雑誌「ドライブ四国」	室戸ジオパーク(室戸岬展望台、吉良川のまちなみなど)及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 7 月	雑誌「ココミル四国」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 7 月	「るるぶ FREE 高知 夏/秋号」に掲載	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 7 月 8 日	中日スポーツ新聞に掲載	室戸ジオパーク(室戸岬)及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 8 月	JTB カード会員誌「THE GOLD」	室戸ジオパーク及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 8 月 29 日	テレビせとうち「どうよ DE ど〜よ」	室戸ジオパーク(室戸岬など)及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 9 月 5 日	テレビ高知「じゃらん！2モーニング」	室戸世界ジオパークセンターでの企画展示を告知
平成 27 年 9 月 30 日	NHK ラジオ「旅ラジ」	室戸ジオパーク及び室戸世界ジオパークセンターを紹介

平成 27 年 10 月	るるぶ情報版「四国八十八カ所」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 27 年 10 月	高知県観光コンベンション協会「平成 28 年度版高知県観光商品素材集」	室戸ジオパーク(ガイド、アクアファーム、吉良川まちなみ館など)及び室戸世界ジオパークセンターを紹介
平成 27 年 10 月 25 日	高知放送「おはようこうち」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介やイベント告知
平成 27 年 11 月	高知県観光コンベンション協会「平成 28 年度版高知県教育旅行ガイドブック」	室戸世界ジオパーク環境学習・防災学習を紹介
平成 27 年 11 月	高知県広報誌「さん SUN 高知 11 月号」	室戸世界ジオパークの再認定について報告
平成 28 年 2 月	「るるぶ FREE 高知 春/夏号」	室戸世界ジオパークセンターの施設紹介
平成 28 年 2 月 15 日	るるぶ情報版「高知・四万十 '16～'17」	室戸ジオパーク及び室戸世界ジオパークセンターを紹介

6-2. 市広報誌

偶数月に「室戸ジオパークだより」を作成して、ジオパークの取組状況等を紹介した。また、毎月発行される「広報むろと」の「知ってる？ジオパーク」のコーナーで最新情報等を報告した。

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月	室戸ジオパークだより Vol. 19	室戸世界ジオパークセンターオープニングセレモニー
平成 27 年 4 月	知ってる？ジオパーク Vol. 75	冬暖かく、心も温か
平成 27 年 4 月	室戸ジオパーク見どころ紹介①	室戸世界ジオパークセンター
平成 27 年 5 月	知ってる？ジオパーク Vol. 76	無人カメラで生き物調査体験
平成 27 年 5 月	室戸ジオパーク見どころ紹介②	段ノ谷山サイト
平成 27 年 6 月	室戸ジオパークだより Vol. 20	専門員紹介 室戸ジオパーク感謝状贈呈式
平成 27 年 6 月	知ってる？ジオパーク Vol. 77	地震・津波観測システム(DONET)
平成 27 年 6 月	室戸ジオパーク見どころ紹介③	羽根岬サイト
平成 27 年 7 月	知ってる？ジオパーク Vol. 78	ジオパークの地理学
平成 27 年 7 月	室戸ジオパーク見どころ紹介④	鯨文化サイト

平成 27 年 8 月	室戸ジオパークだより Vol. 21	GGN 加盟再認定現地審査 ワークショップ開催告知 自由研究教室
平成 27 年 8 月	知ってる？ジオパーク Vol. 79	まがり博士と秘密の海
平成 27 年 8 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑤	室津港サイト
平成 27 年 9 月	知ってる？ジオパーク Vol. 80	4 年に 1 度の再審査
平成 27 年 9 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑥	海洋深層水サイト
平成 27 年 10 月	室戸ジオパークだより Vol. 22	青春市～笑顔をつなぐ虹の架け橋～
平成 27 年 10 月	知ってる？ジオパーク Vol. 81	「ジオパーク」スタンプラリー
平成 27 年 10 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑦	加奈木のつえサイト
平成 27 年 11 月	知ってる？ジオパーク Vol. 82	室戸ジオパークって何がすごいの？
平成 27 年 11 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑧	吉良川まちなみサイト
平成 27 年 12 月	室戸ジオパークだより Vol. 23	ユネスコ正式事業化について お仕事体験イベント
平成 27 年 12 月	知ってる？ジオパーク Vol. 83	第 6 回日本ジオパークネットワーク全国 大会への参加
平成 27 年 12 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑨	夫婦岩サイト
平成 28 年 1 月	知ってる？ジオパーク Vol. 84	海の底を見てみよう
平成 28 年 1 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑩	栂山-西山台地サイト
平成 28 年 2 月	室戸ジオパークだより Vol. 24	室戸ジオパークいどばた会議
平成 28 年 2 月	知ってる？ジオパーク Vol. 85	豊かなくらし
平成 28 年 2 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑪	日沖-丸山海岸サイト
平成 28 年 3 月	知ってる？ジオパーク Vol. 86	ユネスコ正式事業となったジオパーク
平成 28 年 3 月	室戸ジオパーク見どころ紹介⑫	佐喜浜サイト

7-1. 地元小・中・高校生への学習

室戸高校のジオパーク学や市内小学校のジオパーク学習など学校教育において、専門員が講師を務めるなど学校と連携しながら取り組んでいる。平成 27 年度は下記 19 件の学校対応をおこなった。

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月～	室戸高校「ジオパーク学」への対応	ジオツーリズムについての講義や野外 巡検、アドバイザー
平成 27 年 4 月～	室戸高校「室戸学」への対応	室戸ジオパークについてや室戸の将来 を考えるための講演

平成 27 年 5 月 12 日～ 14 日	室戸中学生職場体験受入	聞き取り調査と、その調査結果を反映させた展示作成
平成 27 年 6 月 14 日	高知大学附属小学校への対応	室戸ジオパークについての解説およびジオパークセンター案内
平成 27 年 7 月 22 日～ 24 日	室戸高校生職場体験受入	ジオパークセンターにおける展示解説資料の作成および野外でのジオサイト整備活動を通じて、ジオパークにおける職場体験をおこなった。
平成 27 年 7 月 31 日	室戸市児童会生徒会交流会への対応	室戸岬サイトにおけるフィールド学習と室戸ジオパークについての講演
平成 27 年 8 月 2 日	橘原高校 2 年生総合的な学習「ドリームプラン」作成協力	国際交流の仕事について高校生のインタビューに対応
平成 27 年 9 月 11 日	吉良川小学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 9 月 25 日	佐喜浜中学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 10 月 15 日	中川内中学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 10 月 23 日	室戸中学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 11 月 4 日	甲浦小学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 11 月 4 日	羽根中学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 11 月 9 日	室戸小学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 11 月 20 日	羽根小学校「ジオパーク学習」への対応	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー
平成 27 年 12 月 16 日	室戸小学校への対応(海洋深層水についての学習)	ジオパークセンターでの海洋深層水についての学習に対応
平成 28 年 3 月 15 日	室戸小学校への対応(ジオパークセンター、室戸岬見学)	ジオパークセンターでの学習および室戸岬ジオツアー

7-2. 巡検、フィールドワーク等への対応

高知大学や金沢大学などのフィールドワークに専門員が対応しており、平成 27 年度は、

下記の 10 件への対応実績があった。

日時	事業名	備考
平成 27 年 6 月～	高知大学・ハンレイ岩体の成因研究補助	現地調査立ち会いと調査申請書作成
平成 27 年 7 月～8 月	国土館大・鉄岩石研究の現地調査補助	現地調査立ち会いと調査申請書作成
平成 27 年 7 月 22 日	高知大学短期留学生対応(アメリカ、マレーシア)	ガイドツアー参加サポート
平成 27 年 8 月	高知大・三津周辺地域の地質調査補助	現地調査立ち会いと調査申請書作成
平成 27 年 8 月 3 日～6 日	金沢大・三津周辺地域の地質調査補助	現地調査立ち会いと調査申請書作成
平成 27 年 8 月 4 日	大阪府豊中高校 地学旅行対応	室戸岬での野外巡検とジオパークセンターにおける講演
平成 27 年 8 月 12 日～13 日	徳山大学 野外実習対応	野外実習の補助
平成 27 年 10 月 26 日	湘南学園高校 教育旅行対応	室戸岬でのジオツアーおよび解説
平成 27 年 10 月～2 月	高知大・ジオツーリズム及びジオガイド活動状況の調査	取材対応やアンケート調査の調整
平成 27 年 11 月～2 月	京都大・ハマヒサカキの開花調査補助	現地情報の提供
平成 28 年 1 月 18 日・19 日	インド rain ミュージアム構想関係者への対応	ジオパークプログラムのインドでの展開可能性について意見交換・室戸ジオパークの案内・ジオツアー参加時の英語サポート
平成 28 年 3 月 19 日	高知大学にて開催された国際会議の巡検対応(アメリカ、韓国)	ジオツアー参加時の英語サポート・韓国ジオパーク関係者との情報交換

7-3. 視察対応

台湾や南紀熊野、アポイ岳など他地域のジオパークなどからの視察や、高知県等が主催するモニターツアーなどの対応として、12 件、150 名の実績があった。

日時	事業名	備考
平成 27 年 5 月 30 日	地域再生研究会高知研修対応	
平成 27 年 6 月 12 日	高知県議会産業振興土木委員会視察	
平成 27 年 6 月 29 日～30	伊豆半島ジオパーク推進協議会視察	

日		
平成 27 年 7 月 28 日	東部博関係者現地研修対応	
平成 27 年 9 月 16 日	旅行会社商品企画造成担当者向けモニターツアー(高知県観光コンベンション協会)	
平成 27 年 12 月 1 日	教育旅行モニターツアー(高知県観光コンベンション協会)	ジオセンターと室戸岬の案内
平成 27 年 12 月 7 日	県議会議長視察対応	
平成 28 年 2 月 5 日	土佐清水ジオパーク推進協議会視察	室戸ジオパークの管理・運営の現状についての聞き取りへの対応
平成 28 年 2 月 8 日	教育旅行モニターツアー(高知県東部地域博覧会推進協議会)	
平成 28 年 2 月 16 日	教育旅行モニターツアー(高知県東部地域博覧会推進協議会)	
平成 28 年 2 月 19 日	教育旅行モニターツアー(高知県東部地域博覧会推進協議会)	ジオセンターと室戸岬の案内

8. その他トピックス

日時	事業名	備考
平成 27 年 4 月、10 月	室戸ジオパークWAONカードによる寄附(イオンリテール株式会社)	室戸ジオパークの環境保全保護や地域振興などに寄与することを目的とした寄附金(寄附金額:1,513,513 円)
平成 27 年 4 月、10 月	室戸ジオパークWAONカードによる寄附(株式会社マルナカ)	室戸ジオパークの環境保全保護や地域振興などに寄与することを目的とした寄附金(寄附金額:286,142 円)
平成 27 年 4 月～	ITX 株式会社による寄附	室戸ジオパークの環境保全保護や地域振興などに寄与することを目的とした寄附金(寄附金額:54,600 円)
平成 27 年 6 月 6 日	清掃活動(新村海岸)	室戸ジオパーク推進協議会会員、室戸市役所職員等による清掃活動(参加者:26 名)
平成 27 年 6 月 12 日	こうちミュージアムネットワーク総会	室戸ジオパークについての取り組み発表
平成 27 年 7 月 13 日	清掃活動(羽根)	室戸ジオパーク推進協議会、室戸市役所職員等による清掃活動(参加者:

		16 名)
平成 27 年 8 月 4 日	高知県東部地域博覧会現地研修	
平成 27 年 8 月 24 日～9 月 11 日	インターンシップ生の受け入れ	高知県立大学(3 名)・高知工科大学(3 名)からインターンシップ生の受け入れ
平成 27 年 9 月 5 日	おもてなし清掃活動(室戸岬)	参加者:36 名
平成 28 年 1 月 14 日	第 6 回室戸ジオパークに関する連携・協力調整会議	室戸ジオパーク推進協議会、高知工科大学地域連携機構及び(独)海洋研究開発機構高知コア研究所事務担当者による会議

世界ジオパークネットワーク加盟再審査

審査の日程と概要

世界ジオパークネットワーク（GGN）による加盟再審査が 2015（平成 27）年 7 月におこなわれた。日程とその概要を以下に示す。

7 月 14 日

12:00 ころ、室戸ジオパーク推進協議会会長、副会長、事務局スタッフおよびの岩井顧問、高知県副知事、高知県観光振興部職員、通訳、が高知龍馬空港ロビーに集合。

12:45、ANA563 便で、アンチェル・ベルモンテ・リーバス博士（審査員、スペイン・ソブラルベジオパーク）、日本ジオパーク委員会事務局の渡辺真人博士到着。なお、もうひとりの審査員であるニコラス・ゾウロス教授（ギリシャ・レスボスジオパーク、GGN 協会会長）はヨーロッパ出発便出発遅れのため、ANA563 便への乗り継ぎに間に合わず、15 時頃高知着。

14:00～15:45、高知コアセンター（南国市。高知大学および JAMSTEC 共同運営施設）視察。

17:15～19:00、室戸岬サイト（ガイドによるジオツアー）視察（図 8）。



図 8 室戸岬サイトにおけるジオツアーの視察

7 月 15 日

9:00～11:00、室戸世界ジオパークセンター（セミナールーム）において、室戸ジオパーク推進協議会の取り組みについての事務局長からのプレゼンテーションおよび館内視察。

11:00～11:40、三津常会の防災への取り組みについて視察（島村三津夫常会長および三津地域住民による対応）。

11:50～12:05、室戸世界ジオパークセンター（ライブラリ）において、日本ウミガメ協議会室戸基地の渡辺紗綾研究員から室戸でおこなっているウミガメの調査・保護活動について説明。ジオカフェにて昼食。

午後は高知県立室戸高等学校（堅田校長、下司教諭、高校生 5 人による取り組み発表。図 9 参照）、キラメッセ室戸・楽市、新村遊歩道、西山台地、吉良川まちなみ、国立室戸青少年自然の家について現地視察。



図 9 高知県立室戸高等学校が取り組んでいるジオパーク学について、室戸高校生及び堅田校長がプレゼンテーションを行った。その後、地震発生時を想定した避難訓練を視察した。



図 10 ニューサンパレスむろとでの歓迎交流会。テーマのひとつである救荒植物について説明。また、各団体からの取組発表を行う。

18:50～21:00、ニューサンパレスむろとにおいて取り組み発表会および歓迎交流会の開催（図 10 参照）。

7 月 16 日

9:00～10:00、室戸世界ジオパークセンター（セミナールーム）において、室戸市観光ガイドの会、佐喜浜躍動天然杉郷土の森を守る会、室戸食遊館 808、国立室戸青少年自然の家の概要説明および取り組み発表。

10:00～10:30、赤穂化成株式会社・深層水事業所（工場）の視察。

10:30～11:35、室戸世界ジオパークセンター（セミナールーム）において審査員および室戸ジオパーク推進協議会の間で、ヒアリング・講評・意見交換会。

11:45～12:20、室戸世界ジオパークセンター（セミナールーム）において、審査員による記者発表を実施（図 11）。審査員は市民参加やジオガイド、室戸高校のジオパーク学などに触れ、世界的にも良い例になるとコメントを発表した。

12:25、台風 11 号接近のため予定を繰り上げ、審査員は室戸を出発、高知龍馬空港へ。

15:30、高知龍馬空港発羽田行きの飛行機に搭乗（17:02 羽田着）。



図 11 室戸世界ジオパークセンターにおいて審査員による記者発表

再認定現地審査を終えて

事務所の移転、新しい拠点施設（室戸世界ジオパークセンター）のオープン、ゴールデンウィークが終わってから、ようやく再審査の準備を始めた。そのため、事前準備期間が短すぎてかなり無理をすることになってしまった。4年後の再審査に関しては、1年以上前から計画的に準備する必要がある。

多くの人が、部分的にでも直接英語で伝えることに挑戦できたことは、時間短縮にもなり、何より審査員の好印象につながったので、非常によかった。

直前や当日のスケジュール変更による調整は、台風による影響や、審査員とのやりとりの中で多々発生することがあった。連絡係や先発隊は置いていたが、それに対応する人・団体への連絡や状況説明が十分でなかった面があった。きちんとした説明ができる体制が望ましい。また、今後、プレス対応スタッフの配置は必要である。

審査結果発表

世界ジオパークネットワーク（GGN）ビューローが、2015年9月18日に山陰海岸ジオパークで開催された会議において、室戸ジオパーク推進協議会が作成した再認定審査書類と、現地審査員による再認定審査報告書を検討した結果、室戸世界ジオパークがひきつづきさらに4年間、GGNメンバーとして再認定された（いわゆる「グリーンカード」）。

再認定結果は、第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムのフェアウェルパーティ（9月19日、鳥取環境大学）において、他のジオパークのGGN加盟認定・加盟再認定とともに発表された。

指摘事項

以上のように、GGN加盟再認定という結果を得、UNESCO自然科学局生態系および地球科学部門・パトリックJマッキーヴァー教授から室戸ジオパーク推進協議会事務局長宛の、2015年11月3日付け書簡でも通知があった。同書簡には、11項目の「報告（Recommendations）」がなされた。これらを要約すると、以下の4点にまとめられる。

（1）ジオサイトの見直し

「ジオサイト」という用語は地形・地質に関するサイトのみに使うべきであり、文化的あるいは生態学的サイトについては他の用語を使うべきだとの指摘がなされた。また、ジオサイト（地質サイト、文化サイト、生態学サイト）の数をもっと増やし、たとえば断層露頭のようなサイトを設けるよう勧められた。

（2）内陸部のサイトの追加

現在のジオサイトは海岸部に集中しており、室戸岬に重点をおきすぎているため、内陸部のサイトをもっと増やすべきとの指摘があった。

（3）国立室戸青少年自然の家との連携

国立室戸青少年自然の家は室戸世界ジオパークにとって価値の高い施設であるので、協働関係をさらに拡大させ、教育プログラムなどの活動を推進すべきとの指摘がなされた。また、国立室戸青少年自然の家の展望所はビジターが関心を寄せる重要な要素であり、さらに活用すべきとの指示があった。

（４）国際的活動の活発化

室戸世界ジオパークは、他の世界ジオパークとのさらなるコラボレーションが必要であり、相互訪問や共同活動の取り組みをとおして、世界ジオパークネットワークの運営や活動の推進への協力が求められた。また、室戸世界ジオパークの活動についてのニュースを世界に発信することで室戸世界ジオパークの国際化を進め、さらに、国際会議や国際的な研修会への積極的な参加が奨励された。

再審査結果を受けて

室戸ジオパーク推進協議会は、3人の専門員を中心にすでにジオサイトに関する調査をおこなっている。さらに今回の再審査を受けて、これまで用いてきた「ジオサイト」という用語の見直しをしているところである（本報告書では2015年時点での定義にもとづいて「ジオサイト」という用語を用いており、地質、文化、生態系などの諸サイトが含まれている）。また、2016年度には、内陸部を中心にさらに多くのサイトを設けるための調査研究事業を進める予定である。とくに、2016年1月には室戸市内の7ヶ所において「ジオパークいどばた会議（ジオばた会議）」を開催し、ひろく市民からジオサイト候補地についての情報を収集した。今後（2016年度以降）も、ジオばた会議などの住民参加型の体制を構築して、ジオサイトに関する情報収集、調査・研究を進めていく予定である。

国立室戸青少年自然の家と室戸ジオパーク推進協議会の間では、今後の業務提携についての協議をすすめており、2015年度中に連携・協力に関する協定を締結した。2016年度以降には、教育・防災分野での共済事業をすすめるべく準備している。

現時点で、室戸ジオパークとマレーシア・ランカウィジオパークとの間で一昨年度より交流事業を進めている（小中学生の交流など）。また、2015年9月20日には両ジオパーク代表、事務局員・専門員の間での会合をおこない、今後の提携締結にむけての合意がなされた。

これら再審査結果を受けての改善事項については、次年度以降の四カ年計画にも明記される予定である。上記に示す多数の指摘事項を、今後の室戸ユネスコ世界ジオパーク発展のための糧としていきたい。

ジオパークいどばた会議（ジオばた会議）の開催

日程と会場

平成 27 (2015) 年度は、実行計画（三カ年計画）の最終年度に当たっており、次期実行計画を策定するに先立って、ひろく市民の意見を集めるため「ジオパークいどばた会議（ジオばた会議）」を 2016 年 1 月に実施した。特に、各地域の住民の参加を可能にするため、次の日程と会場でおこなった（図 12 参照）。いずれの日程・会場も午後 7 時から 9 時に開催した。

- 1 月 12 日(火) 吉良川公民館
- 1 月 13 日(水) 羽根公民館
- 1 月 15 日(金) 中川内集会所
- 1 月 18 日(月) 市役所
- 1 月 19 日(火) 室戸岬公民館
- 1 月 20 日(水) ジオパークセンター
- 1 月 21 日(木) 佐喜浜生活改善センター

これらの会場は、室戸市の旧市町村とほぼ対応している（範囲の広い羽根と室戸岬地域はそれぞれ 2 会場に分けた）。



図 12 ジオばた会議の会場

準備

ジオばた会議の開催に先立ち、2015 年 12 月 28 日には室戸ジオパーク推進協議会会員、各地域の代表者（常会長、婦人会）、GGN 再審査時の交流会参加者宛に出席を呼びかける文書を郵送した（全 33 ヶ所宛）。また、12 月 29 日には、室戸ジオパーク推進協議会会員および室戸ジオパークマスターのメーリングリスト宛に、ジオばた会議および「室戸ジオパーク次期実行計画策定会」（2016 年 1 月 26 日開催）への参加を呼びかける電子メールを送信した。2016 年 1 月 1 日発行（実際には 12 月末に戸別配布）の「広報むろと」にジオばた会議開催のチラシを折り込んだ。また、12 月下旬から 1 月上旬には、事務局長から各地域の代表者に電話による勧誘をおこなった。

当日

当日の参加者は、吉良川 14 人、羽根 14 人、中川内 17 人、市役所 15 人、室戸岬 10 人、ジオパークセンター 13 人、佐喜浜 9 人であった。また、協議会からは事務局長、専門員（中村、古澤、白井のうち 2～3 名）、地域おこし協力隊員（小笠原）、事務局員 1 名が参加した。

会議は、いずれも午後 7 時に出席者が集合し、初めの 10 分程度でジオばた会議の趣旨説明（和田事務局長）、15～20 分で室戸ジオパークの近況（GGN 再認定、UNESCO 正式事業化、主なイベント）についての説明（中村専門員または古澤専門員）をおこなった。19:30～20:00 には、出席者からの情報を引き出すため、アンケート記入をお願いした（無記名回答）。アンケート項目は：

- （１）あなたの周りで、お金をかけずに手に入る物がありますか？（例：山菜、炭、薬・薬草、たべもの、など）
- （２）あなたの周りに、岩石、地層、がけなどが見られる場所があれば、お聞かせください。
- （３）あなたの周りではどんな野生生物がいますか？種類や場所などをお聞かせください。
- （４）あなたのお気に入りの場所やものを教えて下さい。（例：景色の良い場所、紅葉、花見、たまり場、思い出の場所、など）
- （５）ジオパークについて提案や実現できたらいいと思うこと、やってみたいことがあればお聞かせください。

以上の 5 項目である。（１）から（４）の設問は、GGN 再審査によって指摘されたジオサイトの見直しを意識した設問である。アンケート記入時には、事務局メンバーが出席者のテーブルに同席して、質問の詳しい意図を説明したり、出席者からの回答を引き出しやすい問いかけをおこなったりして、より詳しい情報が得られるよう工夫した（図 13）。また、出席者のテーブルには茶菓を配布し、「気楽な雰囲気」をつくるようにした。



図 13 ジオばた会議の様子

アンケート記入・回収後は、意見交換会をおこなった（20:00～20:50）。事務局長がアンケート回答の中からいくつかの回答を選んで読み上げ、それに対して会場からも自由な意見を募った。20:50 頃には、事務局長を中心に全体をまとめるとともに、次期実行計画策定に向けての日程・過程を説明して解散とした。

成果

全ての日程・会場を合計して 92 人の出席者から回答を得た結果、（１）の設問については山菜や海産物などの食料品についての回答、（３）についてはシカやイノシシなどの野生動物の目撃情報が多く得られた。（４）についても地域ごとに見晴らしの良い地点や、土地の人々が良く集まる場所など、ユニークな回答が得られた。一方、（２）についての回答は

限られていた。(5)については以下に示すように、多くの提案・意見が得られた。

ビジターを増やすために交通機関や看板の整備：交通手段の整備（市内循環バス、高知～室戸直通バス）、標識や案内看板を増やす

ジオサイトの拡充、ツアーの充実：内陸ジオサイト（川の源流を探るツアーやクロスカントリー）、トレッキング、海から山を見るツアー（クルーズなど）、ナイトツアー（星や動物、波の音）、気象（風、波、雨）体験ツアー、短時間ツアー&長時間ツアー、室戸市民招待ツアー、お金になるツアー

イベント開催、展示の改善：国内外のジオパークについての展示、神祭前後の期間に郷土芸能を披露、室戸の商売人にもスポットライトを（農業・漁業だけでなく）、室戸ジオパークの目指す物を皆でまとめて大きなポスターでアピール、恋人の聖地での浴衣・着物イベント、海の子と山の子の交流イベント、キャンプ・バーベキュー講座、事務局以外でもツアーやイベントを企画する、ジオパークセンターサテライト（羽根ほか）、ジオパークセンターの展示解説をわかりやすく

室戸土産の充実：お土産開発、お土産売り場を増やす

レストラン・カフェの充実：室戸の食材を使った軽食（田舎寿司など）、地元食材の市場を開く、ジオカフェの充実（食べ物、軽食）、ジオパークセンターで魚介を売る（注文を受ける）

その他：一般の人を運営に参加させる、情報共有やPRの仕組みを改善、ジオパークセンター有料化（貴重な展示をアピール）、ジオパークセンターの接客（あいさつ、パンフ配布、交流）、花壇の手入れ、海岸の清掃（市役所でゴミ収集）ジオパーク（協議会・専門員）から学校に授業の提案、民泊の導入

以上のように、ジオばた会議出席者からはジオツアーやイベントに関する意見や提案が多く得られた。これらは、これからジオパーク活動に取り組もうとする一般市民にとっても、また、事務局にとっても着手しやすい課題であり、次年度以降に実現できる項目も多いだろう。また、標識や案内看板の設置のように予算を必要とするもの、交通整備のように外部との折衝を必要とする提案事項もあった。これらは、室戸へのビジター誘致に直接かかわるものだけに、市民も切実な問題と感じているのであろう。これらの課題への取り組みも今後模索していかなければならない。

まとめ

昨年度は2015年2月に2回のジオパーク井戸端会議を実施したが、今年度は7会場計7回の「ジオばた会議」を開催した。1回あたりの参加者数は十数名であったが、全てを合計すると92名の市民の参加を得ることができ、広く市民の意見を募るという点では一定の成果を上げたといえる。とくに、上記にしめす多数の意見・提案を得たことで、今後のジオパーク活動を進める上で貴重な指針を得た。ただし、いくつかの問題点も残された。今後のジオサイトの新設にむけての情報が十分に得られたとはいえない。しかし、ジオばた

会議をととして、住民参加型調査研究事業の遂行が十分に可能であることが実感できた。したがって、今後もジオばた会議や住民参加型の調査事業を行うことで、新規ジオサイトの設置、ジオツーリズムの開発、ジオパーク運営体制の改善を進めていくことが可能であろう。

平成 27（2015）年度会計報告

室戸ジオパークに関する平成 27（2015）年度の会計には、一般会計、事業会計、特別会計の 3 種が存在する。一般会計は室戸市からの補助金を主体に、事業会計は物品などの売り上げを財源に、特別会計は企業からの寄付金を基金として積み立て、それぞれ運営している。

平成 27 年度の決算については、平成 28 年 4 月 20 に会計帳簿及び預金通帳を照合し、監査した結果、領収書及び関係書類は整備されており、不備な点もなく正確であることが監事・青木準吉氏によって確認された。

一般会計（表 1）

一般会計の収入のうち、市からの補助金が 22,851,578 円、これとは別にイベント用経費としての市からの補助金が 218,865 円、PR 動画作成のための国からの交付金が 10,000,000 円、東部博関係経費のための補助金が 400 万円であった。そのほか、金利子（942 円）、前年度繰越金（922,941 円）、消費税中間納付返還金（353,500 円）があった。PR 動画製作業務では、360 度の景色がスマートフォンなどのメディアで閲覧できる動画を作成した。収入の合計決算額は、38,347,926 円であった。

一般会計・支出の総額は 37,462,237 円で、収入額と差引きすると 885,689 円の黒字であった。市補助金からの最大支出項目は人材育成費（15,293,906 円）で、これは専門員やパート職員の人件費や、ガイド養成講座・マスター講座等の人材育成事業費に充てられた。また、啓発活動費（4,201,128 円）は広報等に使用された経費である。その他の科目として、記念イベント、写真コンテスト広報費として 218,865 円等がある。

事業会計（表 2）

事業会計収入は、主にグッズ販売売上（ポロシャツ、オリジナルグッズ等）1,270,050 円、体験プログラム（生き物ウォッチング、自然体験、サイクリング探索）参加費 119,000 円、体験イベント（色塗り体験やジオラマ、レンタサイクル等）収益 296,200 円からなる。在庫として保有しているグッズ類は、将来の売り上げを見越して 638,700 円の収入として計上した。収入の合計は 3,348,231 円であった。

支出の部では、グッズ等仕入れ金（1,166,780 円）、体験プログラム経費など全て合計すると 2,083,311 円であった。収入合計から、支出額および現金化されていない在庫額（638,700 円）を引くと、626,220 円の黒字額（翌年度への繰越金）となった。

特別会計（表 3）

特別会計の収入の部は、26 年度からの繰越金 2,840,080 円および企業からの寄付金 1,854,255 円、利息 509 円からなる。戻入 64,609 円を加えると、決算額は 4,759,453 円で

あった。特別会計から体験プログラムおよび販売にかかる経費として 773,296 円を繰り出した結果、27 年度末残高は 3,986,157 円となり、この金額を翌年度へ繰越すこととなった。

表 1 平成 27 年度 一般会計 収支決算書

(収入の部)

単位:円

科 目	当初予算額	決算額	当初予算との比較	説 明
補 助 金	24,000,000	22,851,678	△ 1,148,322	市補助金 24,000,000 円
	270,000	218,865	△ 51,135	市補助金(イベント経費) 270,000 円
	0	10,000,000	10,000,000	PR 動画作成業務(交付金) 10,000,000 円
	4,000,000	4,000,000	0	東部地域博覧会企画展補助金 4,000,000 円
その他	500	942	442	預金利子 942 円
繰越金	443,981	922,941	478,960	前年度繰越金 922,941 円
消費税中間納付返還金	0	353,500	353,500	353,500 円
合 計	28,714,481	38,347,926	9,633,445	

(支出の部)

単位:円

科 目	当初予算額	決算額	当初予算との比較	説 明
市補助関係	24,000,000	22,851,678	△ 1,148,322	環境整備費 94,177 円 啓発活動費 4,201,128 円 人材育成費 15,293,906 円 負担金等 599,660 円 旅費 1,877,837 円 需要費 784,970 円 小計 22,851,678 円
PR 動画	0	10,000,000	10,000,000	PR 動画作成 10,000,000 円
補助関係	4,000,000	4,000,000	0	東部地域博覧会企画展委託料 4,000,000 円
イベント経費	270,000	218,865	△ 51,135	記念イベント、写真コンテスト広報 218,865 円
予備費	444,481	38,194	△ 406,287	PR 動画撮影機器一部負担 38,194 円
消費税中間納付金	0	353,500	353,500	中間納付金 353,500 円
合 計	28,714,481	37,462,237	8,394,256	

■収支差額

・収入 38,347,926－支出 37,462,237＝885,689 円を翌年度へ繰り越す。

表 2 平成 27 年度 事業会計 収支決算書

(収入の部)

単位:円

科 目	当初 予算額	決算額	当初予算と の比較	説 明
グッズ販売売上	1,519,600	1,270,050	△ 249,550	ポロシャツ売上(ポロシャツ 401 枚、コート・パーカー47 枚) 967,000 円
				クリアファイル売上(79 枚) 15,900 円
				ピンバッジ売上 (袋 112 個、箱 20 個) 41,600 円
				ガチャ売上 223,050 円
				WAON カード売上 22,500 円
				小計 1,270,050 円
体験プログラム関係	0	119,000	119,000	生き物ウォッチング収益 38,000 円
				自然体験収益 54,000 円
				サイクリング探索収益 27,000 円
				小計 119,000 円
その他体験イベント	0	296,200	296,200	色塗り体験収益 145,600 円
				ジオラマづくり体験収益 94,500 円
				レンタサイクル収益 31,900 円
				その他体験イベント 24,200 円
				小計 296,200 円
その他	100	56,889	56,789	預金利子等 56,889 円
繰越金	194,096	194,096	0	前年度繰越金 194,096 円
繰入金	773,296	773,296	0	グッズ作成費、WAON カード購入費、体験プログラム経費 773,296 円
在庫	320,400	638,700	318,300	ポロシャツ 89 枚(通常サイズ 87 枚、特注サイズ 2 枚) 160,600 円
				ピンバッジ(188 個) 56,400 円
				クリアファイル(1,921 枚) 384,200 円
				WAONカード(125 枚) 37,500 円
				小計 638,700 円
合計	2,807,492	3,348,231	540,739	

(支出の部)

単位:円

科 目	当初予算額	決算額	当初予算との比較	説 明
グッズ類仕入	1,628,496	1,166,780	△ 461,716	ポロシャツ発注経費 796,900 円
				クリアファイル発注経費 155,520 円
				ピンバッジ発注経費 70,200 円
				ガチャ発注経費 104,160 円
				WAON カード発注経費 40,000 円
				小計 1,166,780 円
体験プログラム	300,000	298,807	△ 1,193	報償費、保険料等 298,807 円
その他体験	0	256,977	256,977	色塗り・ジオラマづくり体験材料費、その他教材費等 256,977 円
需用費	55,000	49,412	△ 5,588	需用費 49,412 円
返還金	0	64,609	64,609	グッズ作成費 63,416 円
				体験プログラム 1,193 円
				小計 64,609 円
法人税	194,100	104,300	△ 89,800	グッズ類販売に係る法人税 104,300 円
消費税	75,625	42,426	△ 33,199	消費税 42,426 円
予備費	549,271	100,000	△ 449,271	レジお釣り 100,000 円
合計	2,802,492	2,083,311	-719,181	

■収支差額

収入 3,348,231 円・支出 2,083,311 円・在庫 638,700 円＝626,220 円を翌年度へ繰り越す

表 3 平成 27 年度 特別会計 収支決算書〔室戸ジオパーク振興基金〕

(収入の部)

単位:円

科 目	当初予算額	補正 予算額	決算額	当初予算 との比較	説 明
前年度繰越金	2,840,080		2,840,080	0	2,840,080 円
寄付金	1,800,000	0	1,854,255	54,255	イオンリテール株式会 社 寄付金 1,513,513 円
					株式会社 マルナカ 寄付金 286,142 円
					ITX 株式会社 寄付金 54,600 円
					小計 1,854,255 円
利息	50	0	509	459	利息 509 円
小計	4,640,130	0	4,694,844	54,714	
戻入	0	0	64,609	64,609	64,609 円
合計	4,640,130	0	4,759,453	119,323	

(支出の部)

単位:円

科 目	当初予算額	補正 予算額	決算額	当初予算 との比較	説 明
繰出金	773,296	0	773,296	0	体験プログラム 300,000 円
					販売商品にかかる経費 433,296 円
					WAON カード販売経費 40,000 円
					小計 773,296 円
予備費	3,866,834	0	0	-3,866,834	予備費 0
合計	4,640,130	0	773,296		

■収支差額

収入 4,759,453 円-支出 773,296 円=3,986,157 円を翌年度へ繰り越す

2015 年度個別業務報告

古澤 加奈 室戸ジオパーク推進協議会・国際交流専門員

主な業務の内容

2015 年度は、室戸世界ジオパークセンターのオープン準備、高知家まると東部博関連施設スタッフ研修対応などから始まった。4 月中旬には、GGN 再審査の審査員決定の通知を受けて、審査員との日程調整などに着手した。5 月には、新たに開発した 3 つの体験プログラム運営を開始した。再認定審査書類の準備を約 1 か月半でとりまとめ、審査員に送付した。再審査当日の対応を英語で取り扱う場合の事前準備サポートやスケジュール調整等、準備に取り組んだ。再審査では、全体の進行を担当し、スケジュールの再調整や評価表に関する質疑応答などに対応した。審査後は、追加書類を作成し、期限内に審査員に送付した。

夏休み期間中は、体験プログラムの対応が多くなった。体験プログラムについては、企画開発の背景から夏の実施事例などまでを 9 月の APGN シンポジウムで発表した。

外国からの巡検対応などに加え、今年度はインバウンドフェアに参加し、東アジア・東南アジアの旅行業者への PR を行った。また、インバウンドをテーマとしたパネルディスカッションに登壇し、地域の課題を話し合った。

ジオツーリズム推進チームの季節限定ツアーの広報・実施サポートを行った。また、観光客を自家用車両に乗せてガイドツアーを運営できないか検討し、四国運輸局高知運輸支局と相談し、説明会の機会を設けた。

11 月には、下仁田ジオパークの日本ジオパーク再認定審査の現地審査を行った。また、2 月には、公益財団法人自然保護助成基金の国際的なプログラムに関する助成に申請し、「室戸ユネスコ世界ジオパークにおける住民参加型の河川と森林の保全調査システム構築」プロジェクトに助成を受けられることとなった。このプロジェクトは、次年度に実施する予定である。

協議会主催行事

- 1) 室戸世界ジオパークセンター・オープニング記念スペシャルジオツアー対応（2015 年 4 月 29 日）
- 2) 体験プログラム立ち上げ・広報・運営
「自然体験（磯遊びなど）」「サイクリング探索」「生き物ウォッチング！」（高知家まると東部博の体験プログラムとして開発・運営開始、2015 年 5 月～）、東部博終了後のプログラム継続
- 3) GGN 再認定現地審査コーディネート・進行（2015 年 7 月 14 日～16 日）
- 4) ジオツーリズム推進チーム主催ジオツアーの広報・運営コーディネート（8 月・11 月・

12月)

- 5) ランカウイジオパークと室戸ジオパークの児童・生徒との交流促進：絵画や書道作品、工作の交換（室戸高校・吉良川小学校）
- 6) 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座
2016年1月23-24日、2月20-21日、3月12-13日 事務局スタッフ
2016年3月13日「ジオパークのしくみ」講師
- 7) 室戸ジオパークマスター講座 2015
2016年3月7日、3月24日「ユネスコ正式事業となったジオパーク～新ガイドラインを読んでみよう～」(講師)
外部講師招聘調整（西谷香奈さん、河合準子さん、殿谷梓さん、前田綾子さん）

会議、研修会、ネットワーク活動

- 1) APGN（アジア太平洋ジオパークネットワーク）CC meeting（2015年9月16日、山陰海岸ジオパーク）
- 2) 第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（2015年9月17日～20日、山陰海岸ジオパーク）
口頭発表：“Development of New Activity Programs in Muroto Global Geopark”
- 3) 日本ジオパークネットワーク活性化部会および国際化ワーキンググループ会議（2015年10月26日、霧島ジオパーク）
- 4) 第6回日本ジオパーク全国大会（2015年10月27日～29日、霧島ジオパーク）
分科会：日本のジオパークが目指す方向
- 5) 日本ジオパーク再認定現地審査・審査員（2015年11月7日-10日、下仁田ジオパーク）

外部での講演・講師

- 1) 室戸岬老人会シルバーセミナー講演（2015年9月2日）
講演：「室戸世界ジオパークの生き物たち」
- 2) 東部博クロージングイベント「ここから大会議&なかじめ祭」パネルディスカッション・パネラー（2015年12月23日）
- 3) 「AMAの国づくり観光会議」インバウンドの課題などに関するパネルディスカッション・パネラー（2016年2月23日）

普及活動等

- 1) 梶原高校 2年生総合的な学習「ドリームプラン」作成協力（2015年8月2日）：国際交流の仕事について高校生のインタビュー対応
- 2) 四国インバウンドフェア 2015（2015年9月9日、高知市）：商談会でのPR
- 3) 室戸市立佐喜浜中学校 移動博物館学習 2015年12月9日

- 4) ホネホネサミット in 高知（2016 年 2 月 13 日・14 日、高知大学）：ブース出展

投稿記事等

- 1) ”The Muroto Global Geopark Center opened in April 2015” GGN NEWSLETTER
2015 ISSUE 1（2015 年 9 月発行）

成果と課題

3 つの体験プログラムを開発し、運営を開始できたことは、大きな成果である。しかし、インストラクターの養成は、前年度の 3 月に 1 回ずつ実施しただけで不十分であった。それを補うために、インストラクター養成講座の講師にインストラクターを依頼し、インストラクター候補者に実践的に学ぶ機会を設け、徐々にインストラクターを増やすことができたプログラムもあった。それでもなお、運営体制については発展の途上にあり、今後さらに充実させる必要がある。

世界ジオパークの再認定審査を受け、また日本ジオパークの再認定審査を担当したことは、貴重な経験となった。審査書類を作成し、その内容について審査員と議論できたことで、ジオサイトの見直しなど今後の課題が明らかになった。また、その後に自らが日本ジオパークの審査を担当し、審査地と室戸の共通の課題を発見することができた。例えば、ジオパーク関連商品のブランド化などである。

自家用車両利用の可能性等、ジオツーリズムの実施を充実させるための方法については、今後も引き続き情報収集に努め、取り組んでいきたい。

白井 孝明 室戸ジオパーク推進協議会・地質専門員

主な業務の内容

本年度は室戸世界ジオパークセンターのオープンや GGN 再審査もあり、前半はその対応に追われたものの夏休み以降は「夏休み自由研究教室」、「室戸ジオパークマスター講座 2015」、「室戸ユネスコ世界ジオパーク ガイド養成講座」などを企画し、子どもから大人まで幅広くジオパーク活動を推進する人材の育成に取り組んだ。外部での講師・講演依頼としては、小中学校のジオパーク学習や室戸高校のジオパーク学、室戸学など市内の学校に講師として赴いたほか、高知工科大、徳山大学、豊中高校など市外からの依頼も多く、室戸のフィールドを活用した学習を広く提供した。こうした取り組みは、APGN シンポジウムや JGN 全国大会などで発表した。

協議会主催行事

1) 夏休み自由研究教室

2015 年 7 月 28 日（羽根公民館，室戸市立市民図書館），29 日（吉良川公民館，佐喜浜生活改善センター），8 月 2 日（室戸世界ジオパークセンター）

2) 室戸ジオパークマスター講座 2015（講師）

2015 年 6 月 27 日，7 月 25 日，8 月 2 日，9 月 8 日「説明会&初回講座」

2015 年 9 月 5，13 日，12 月 10 日「室戸の地質の話」

2015 年 10 月 16 日「ゼロから始める電子メールと SNS」

2015 年 11 月 18 日「岩石図鑑を作ろう」

2015 年 12 月 19 日「ジオツーリズム開発のための現地調査」

2016 年 3 月 17 日「東日本大震災被災地の現状とこれから」

3) 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座

2016 年 1 月 23－24 日，2 月 20－21 日，3 月 12－13 日 事務局スタッフ

2016 年 1 月 24 日「室戸の地質」講師

会議、研修会、ネットワーク活動

1) 日本ジオパークネットワーク活性化部会および教育ワーキンググループ会議 （2015 年 5 月 23 日、幕張メッセ）

2) 日本地球惑星科学連合大会 2015 年大会（2015 年 5 月 24 日、千葉）

口頭発表：「室戸ジオパークで体感する大地との付き合い方」

3) APGN（アジア太平洋ジオパークネットワーク）CC meeting（2015 年 9 月 16 日、山陰海岸ジオパーク）

4) 第 4 回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（2015 年 9 月 17 日～20 日、山陰海岸ジオパーク）

ポスター発表：“Geo-education in Muroto Global Geopark”

- 5) 日本ジオパークネットワーク活性化部会および教育ワーキンググループ会議
(2015 年 10 月 26 日、霧島ジオパーク)
- 6) 第 6 回日本ジオパーク全国大会 (2015 年 10 月 27 日～29 日、霧島ジオパーク)
分科会：みんなで作ろう！ジオパーク教育のスタンダード
事例発表：「室戸ジオパークの地域学習」

外部での講演・講師

- 1) 高知工科大学「室戸ジオパークについて」(2015 年 4 月 11 日)
- 2) 室戸高校「ジオパーク学」(2015 年 4 月～2016 年 3 月)
- 3) 室戸高校「室戸学」
2015 年 4 月 28 日「室戸世界ジオパークについて」
2015 年 2 月 16 日「室戸の将来を考える」
- 4) 高知工科大 食のキャラバン (2015 年 7 月 4 日)
- 5) 室戸市児童会生徒会交流会 講演 (2015 年 7 月 31 日)
- 6) 豊中高校 地学旅行 (2015 年 8 月 4 日)
- 7) 徳山大学地理学実習 (2015 年 8 月 13 日)
- 8) ジオパーク学習
2015 年 9 月 11 日 吉良川小学校 6 年生
2015 年 10 月 15 日 中川内中学校 1～3 年生
2015 年 11 月 4 日 羽根中学校 1～3 年生
2015 年 11 月 4 日 甲浦小学校 3, 4 年生
2015 年 11 月 20 日 羽根小学校 5, 6 年生
2016 年 2 月 25 日 野根小学校 5, 6 年生
2016 年 3 月 1 日 甲浦小学校 5, 6 年生
- 9) 土佐清水市ガイド研修会 (2015 年 9 月 2 日)
- 10) 室戸青少年自然の家 ジオパーク防災キャンプ (2015 年 9 月 20 日～22 日)
- 11) 安芸郡市町村教育委員会連絡会合同研修会 講演 (2015 年 10 月 8 日)
- 12) 高知大学 CST 講義, 野外実習「室戸の自然 III」(2015 年 10 月 10 日)
- 13) 室戸青少年自然の家 ジオ化石博士になろう (2015 年 10 月 17 日)
- 14) 自然体験活動指導者養成講座 講師 (2015 年 11 月 23 日)
- 15) 教員免許状更新講習 講師 (2016 年 2 月 14 日)
- 16) 三陸ジオパークガイド研修会 (2016 年 3 月 7 日)

成果と課題

2015 年度は学校教育におけるジオパーク学習について進展のあった年といえる。

室戸高校は、本年度からジオパーク学を「IT アート系列」2年生の必修講義とし、新たに1年生向けに「室戸学」という室戸の地域性を学ぶ授業を開講した。室戸学ではジオパークを軸として地形・地質、生態系、文化・産業を広く学び、その後ジオパーク学でそれらの活用を学ぶという新たな連動性が生まれることが期待される。次年度以降の課題としては、生徒が地域住民とともに学ぶ場をつくることや、野外実習の機会を増やして実体験を通してジオパークの活用に主体的に取り組むプロセスを構築することが求められる。

小中学校の学習としては、昨年に引き続きジオパーク学習のためのバス代等の予算が計上され、すべての小中学校でその機会が設けられた。それに対して室戸市観光ガイドの会や教育推進チームが連携し、子ども向け学習プログラムの開発にも取り組んだ。年度末には甲浦小学校や野根小学校など、市外の学校からの依頼があり、ジオパークを活用した学習が広がっている。次年度には県外からの教育旅行受け入れも決まっており、団体受け入れのノウハウの蓄積とガイド団体と連携した円滑な進行が課題である。

中村 有吾 室戸ジオパーク推進協議会・地理専門員

主な業務の内容

室戸ジオパークにおける海岸部の詳細地形および表層堆積物に関する現地調査および空中写真判読、地形図読図作業をおこなった。野外で得たデータ、および既存の地理学的資料は、今後のジオパーク活動（とくに教育・普及活動）に供するため GIS ソフトウェアを用いて地図化した。室戸ジオパークの自然地理学的データにもとづいて、地域住民への普及活動をおこなった（マスター講座や講演会など）。2015 年 7 月の GGN 再審査に先だって、評価表の作成・英訳作業をおこなった。また、再審査当日の記録をとった。2016 年 1 月のジオパークいどばた会議（ジオばた会議）では事務局スタッフとして、チラシ作成、依頼状発送、会議当日の報告などを担当した。

協議会主催行事

1) ジオパークマスター講座（講師）

2015 年 8 月 8 日、9 月 5 日、9 月 9 日「室戸の地理の話」

2015 年 10 月 8 日、11 月 14 日「地形図の読み方（基礎）」

2015 年 10 月 15 日、11 月 14 日「地形図の読み方（応用）」

2015 年 12 月 12 日「海成段丘ツアー（野外講座）」

2) 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座

2016 年 1 月 23－24 日、2 月 20－21 日、3 月 12－13 日 事務局スタッフ

2016 年 2 月 21 日「室戸の地理と地形」（座学と野外観察会）講師

3) 体験プログラム「生き物ウォッチング!」、補助スタッフおよびデータ整理

2015 年 5 月 16－17 日、6 月 20－21 日、8 月 6－7 日、8 月 16－17 日、9 月 26－27 日、
10 月 17－18 日、11 月 28－29 日、12 月 26－27 日

会議、研修会、ネットワーク活動

1) 第 6 回日本ジオパークネットワーク全国研修会（2015 年 5 月 22 日、東京）

2) 平成 27 年度こうちミュージアムネットワーク総会（2015 年 6 月 12 日）

口頭発表：「室戸世界ジオパークにおける活動について」

3) 第 7 回日本ジオパークネットワーク研修会（2015 年 7 月 2－3 日、白滝ジオパーク）

4) XIX INQUA Congress（国際第四紀学連合第 19 回大会）（2015 年 7 月 31 日、名古屋市）：海岸地域の災害についての情報収集および発表

口頭発表：”Local correlation of sandy paleo-tsunami layers focusing on particle size and mineral composition.”

ポスター発表：”Stratigraphy, distribution, and petrographic properties of Holocene

tephras in Hokkaido, northern Japan.”

- 5) 第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム (2015年9月17日～20日、山陰海岸ジオパーク：豊岡市・鳥取市)

ポスター発表：“Application of GIS for geopark activity in Muroto Global Geopark”

- 6) 第6回日本ジオパーク全国大会 (2015年10月27日～29日、霧島ジオパーク) 分科会：ジオパークと防災

外部での講演・講師

- 1) YMCA 阿南国際海洋センター「親子で考える防災デイキャンプ」(2015年10月11日)：講師
- 2) 第4回高知コアセンター講演会「高知から広げよう！地球の科学」(2015年11月28日、高知市)：パネリスト
- 3) ジオパーク学習への対応
- 平成27年6月14日 高知大学附属小学校 (ジオパークセンター見学)
- 平成27年9月25日 佐喜浜中学校 (ジオパークセンターおよび室戸岬見学)
- 平成27年10月23日 室戸中学校 (ジオパークセンターおよび室戸岬見学)
- 平成27年10月26日 湘南学園高校 教育旅行 (室戸岬見学)
- 平成27年11月9日 室戸小学校 (ジオパークセンターおよび室戸岬見学)
- 平成27年12月16日 室戸小学校 (ジオパークセンターで海洋深層水についての学習)
- 平成28年3月15日 室戸小学校 (ジオパークセンターおよび室戸岬見学)

キャンペーン活動

- 1) 日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック合同キャンペーン (2015年8月21日～22日、大阪市)：旅行業者へのプレゼンテーション、地下街でのブース出展
- 2) ユネスコ正式事業化決定記念キャンペーン (2016年2月2日、東京国際フォーラム)：プレゼンテーション、ブース出展
- 3) よしくま祭り (2016年2月13-14日、南紀熊野ジオパーク：白浜町)：ブース出展

著書・論文

- 1) Nakamura, Y. (2016) Stratigraphy, distribution, and petrographic properties of Holocene tephras in Hokkaido, northern Japan. *Quaternary International*, 397, 52-62.
- 2) 中村有吾 (印刷中)「火山灰編年学にもとづく北海道の人類史，環境史，災害史の諸問題」. 安田喜憲・高橋 学 (編)「自然と人間の関係の地理学」古今書院.

成果と課題

2015 年度は室戸ユネスコ世界ジオパークの主要部分の地形学図（地形分類図および海岸属性図）を完成させると共に、地形図、地質図データの GIS 化をほぼ完成させた。また、データの一部は 2015 年 9 月に山陰海岸ジオパークで開催された APGN 大会で発表した。今後は、GIS データをジオパーク関係者（事務局スタッフや地域住民、ジオパーク来訪者）で広く共有する仕組みを作る必要がある。また、今年度は海岸地域の地形・環境変化について組織的に調査をおこなう体制（地域住民を中心とする組織）を構築できなかったため、来年度の課題としたい。

小笠原 優 室戸市観光ジオパーク推進課・地域おこし協力隊

主な業務の内容

室戸ユネスコ世界ジオパークの企画および広報を担当。公式ホームページや Facebook・twitter の更新、室戸市の月刊広報紙である「広報むろと」のジオパーク関連の記事を担当。隔月で広報誌に挟み込む「室戸ジオパークだより」を作成。その他、室戸ジオパーク推進協議会の専門員や市職員の業務の補助。

協議会主催行事

- 1) 室戸ユネスコ世界ジオパークガイド養成講座
2016 年 1 月 23-24 日、2 月 20-21 日、3 月 12-13 日 事務局スタッフ
- 2) 室戸ジオパークいどばた会議
2016 年 1 月 12,13,15,18,19,20,21 日の計 7 回 事務局スタッフ
- 3) ジオパークマスター講座（講師）
2016 年 3 月 19 日「音楽にみる、ストーリーの表現方法」（芸術科目）

会議、研修会、ネットワーク活動

- 1) ユネスコ正式事業化決定記念シンポジウム（2016 年 2 月 15 日、鳥取）
- 2) ほんもの体験フォーラム in 高知（2016 年 3 月 26 日、高知県土佐清水市）
分科会：ジオパークの推進は地域活性化に通じる

成果と課題

2016 年 1 月からの勤務で、まずは「ジオパークとは何か」を学んでいくところから始まった。ガイド養成講座やいどばた会議に全て参加することで、ジオパークのことやそのガイドに関して学び、また地域の方々と話をする機会を持つことが出来た。広報担当として、公式ホームページやその他の広報媒体を前任者から引き継ぎ、運用をするとともに、申込みページやガイドツアーのページをより分かりやすく使いやすいものにするなど、改善に務めている。また、「広報むろと」の原稿を書き始めるなど、少しずつ仕事の幅を広げている最中である。マスター講座では、自分の趣味がジオパークを伝える手段である「ジオストーリー」と繋がる形で活用出来るとのことで、芸術科目として講師を務めさせていただいた。室戸の魅力やジオパーク活動を広めていくため、より一層の広報活動に努めていきたい。また企画についても今後行っていきたい。

室戸世界ジオパークセンター カウンタースタッフ

主な業務の内容

(1) ジオパークセンターに来館されたお客様への対応

基本的には自由観覧の施設（実際にジオパークを探索するための事前学習／情報収集をする場）なので、カウンタースタッフからお客様へのお声掛けは、挨拶と簡単な館内案内に留めて、ゆったりとご自身のペースで回っていただけるように心掛けている。

お客様からは、ジオパークの見どころ・近隣の観光施設・公共交通・食事処・宿泊施設などの質問をいただくことが多く、そういった情報提供もおこなっている。

年間を通して、団体・個人問わずお遍路さんの立ち寄りも多い。

(2) ツアーの受付

室戸市観光ガイドの会が主催する『室戸岬ツアー』をメインに、推進協議会主催の『自然体験』『生き物ウォッチング』『サイクリング探索』などの、ツアー受付および案内をおこなっている。主に、電話・インターネットからの事前申込みだが、大型連休や週末などはジオパークセンターにいらしてから、ツアー参加を希望されるお客様も多い。

成果と課題、次年度への申し送り事項

(1) ジオパークセンターに来館されたお客様への対応

2015年度は、OPEN・東部博などの効果もあり、多くのお客様に来館いただけた。今年度からは、一人でも多くのお客様に、繰り返し室戸に足を運んでいただくきっかけとなるような、ジオパークセンター独自の取り組みが必要になってくると考える。常設展示以外の情報の充実や、2Fスペースの利用促進、情報発信などが課題。

(2) メインとなっている『室戸岬ツアー』については、2015年度 835件 9,943名のお客様にご利用いただいた（そのうち、約 140件 4,800名は、旅行会社のツアーでのご利用）。今後は、個人やグループで室戸を訪れてくださるお客様向けの、体験型・滞在型のツアーや、当日飛び込みでも参加できるツアープログラムの開発・集客などが課題。

①②共通の課題として、外国からのお客様への対応強化（英語での取次ぎなど）。

付録 室戸ユネスコ世界ジオパークの概要

室戸ユネスコ世界ジオパークは、四国の西南部、室戸半島の南端に位置し（33° 17' N、134° 09' E、図 14）、室戸市の市域全域をその範囲とする。その面積は 248.2 km² で、東西に 18.6 km、南北に 27 km、海岸線延長 53.3 km ある。2008 年 12 月に日本ジオパークに認定、2011 年 9 月には世界ジオパークネットワークへの加盟認定を受けた。さらに、2015 年 11 月のジオパーク活動の UNESCO 正式事業化に伴い、「室戸ユネスコ世界ジオパーク（Muroto UNESCO Global Geopark）」となった。室戸岬の尖った形は、室戸ジオパークの地形的特徴である（図 15）。2015 年現在、室戸ジオパーク内の 22 の地点を「ジオサイト」に指定している。

室戸ジオパークのコンセプトは「海と陸が出会い、新しい大地が誕生する最前線」である。室戸沖約 140 km にある南海トラフ（図 14）では、海洋プレートであるフィリピン海プレートが、大陸プレートであるユーラシアプレートの下に沈み込んでおり、それに伴う地学現象が顕著に表れるのが室戸である。プレート運動の結果は、地質（付加体）と地形（海成段丘）に顕著に表れる。室戸ジオパークで観察できる付加体は、とくに海岸部において連続的に露出する成層構造の明瞭な堆積岩で、約 5000 万年前から 1600 万年前に形成された四万十帯に属する（平ほか, 1980; Taira et al., 1988; Taira et al., 1992）。この地層は、フィリピン海プレート表面に堆積したタービダイト層が、南海トラフでのプレート沈み込みにともなって大陸プレート付け加えられた「付加体」である（図 16、図 17）。

また、プレート沈み込み帯では、プレート間地震が発生する。室戸岬は、南海トラフで発生する地震に伴って隆起することが古くから知られる（たとえば、今村, 1930; 三野, 1931; 吉川ほか, 1964）。また、室戸岬の西海岸では、度重なる隆起の痕跡としての海成段丘が連続的に分布する（図 18）（たとえば、Watanabe, 1932; 吉川ほか, 1964; 前杵, 1988; 小池・町田, 2001; Matsu'ura, 2015）。海成段丘面の年代と高さから推定される室戸岬の隆起速度は推定約 1.4 m/1000 年で、日本列島の他の隆起地域が 1 m/1000 年以下であることを考えると、かなりの早さで隆起している（小池・町田, 2001; 前杵, 2006）。南海トラフの沈み込みに伴う地殻変動と、日本列島の東西圧縮に伴う地殻変動が同時に働いた（岡村, 1990）結果、室戸岬は太平洋に突き出す鋭角的な地形となった。

室戸ユネスコ世界ジオパークの運営は、室戸ジオパーク推進協議会を中心におこなわれているが、室戸でおこなわれるジオパーク活動には地域住民が深く関わっている。室戸ジオパーク推進協議会では、実行計画を実際に行動に移していく実戦部隊として、5 つの「ジオパーク活動推進チーム」を 2013 年に立ち上げた。たとえば、「ジオツーリズム推進チーム」がある。「ジオツーリズム推進チーム」は、広く市民や室戸ジオパーク推進協議会会員にアナウンスし、誰でもいつからでも参加できる。ほぼ毎月 1 回のペースで会議を開き、新たなツアーの開発し、有料で実施、更に改良したツアーを実施してきた。このほかにも、ジオパーク運営、ジオパークネットワーク活動、調査研究、教育・保護・防災などの推進

チームがあり、地域住民参加型のボトムアップ型のジオパーク運営をおこなっている。とくに、2014年3月に開催された「ジオパークなうわさ話の会」、2016年1月の「ジオばた会議（ジオパークいどばた会議）」など、地域住民との情報共有・意見交換の場を積極的に設けている。

引用文献

- 今村 明恒 (1930) 四國南部の急性的並に慢性的地形變動に就いて. 地震 第1輯, 2, 357-371.
- 小池 一之・町田 洋編 (2001) 日本の海成段丘アトラス. CD-ROM3枚, 付図2葉, 解説書 105p. 東京大学出版会.
- 前杵 英明 (1988) 室戸半島の完新世地殻変動. 地理学評論 Ser A, 61, 747-769.
- 前杵 英明 (2006) 室戸半島の第四紀地殻変動と地震隆起. 地質学雑誌, 112, S17-S26.
- Matsu'ura, T. (2015) Late Quaternary uplift rate inferred from marine terraces, Muroto Peninsula, southwest Japan: Forearc deformation in an oblique subduction zone. *Geomorphology*, 234, 133-150.
- 三野 與吉 (1931) 高知市四近に於ける侵蝕面の對比と土佐灣東半部の海岸地形誌. 地學雜誌, 43, 256-267.
- 岡村 行信 (1990) 四国沖の海底地質構造と西南日本外帯の第四紀地殻変動. 地質学雑誌, 96, 223-237.
- 平 朝彦・田代 正之・岡村 真・甲藤 次郎 (1980) 高知県四万十帯の地質とその起源. 平 朝彦・田代 正之編「四万十帯の地質学と古生物学-甲藤次郎教授還暦記念論文集」: 319-389, 林野弘済会高知支部.
- Taira, A., Katto, J., Tashiro, M., Okamura, M. and Kodama, K. (1988) The Shimanto belt in Shikoku, Japan-Evolution of Cretaceous to Miocene accretionary prism. *Modern Geology*, 12, 5-46.
- Taira, A., Byrne, T. and Ashi, J. (1992) Photographic atlas of an accretionary prism : geologic structures of the Shimanto Belt, Japan. 124p, University of Tokyo Press.
- Watanabe, A. (1932) The Geomorphology of the Coastal District of Southeastern Sikoku ; a Contribution to the Knowledge of the Recent Crustal Movements of the Area under Discussion. *Bulletin of the Earthquake Research Institute*, 10, 209-234.
- 吉川 虎雄・貝塚 爽平・太田 陽子 (1964) 土佐灣北東岸の海岸段丘と地殻変動. 地理学評論, 37, 627-648.

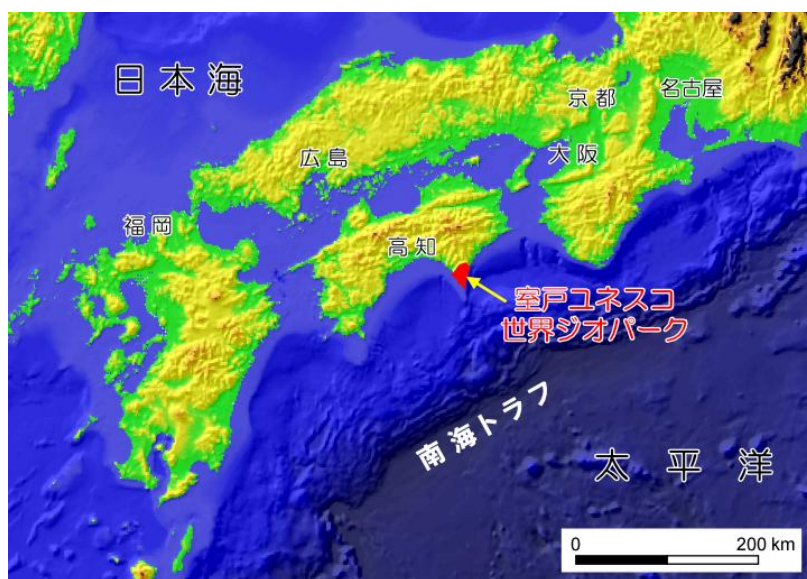


図 14 室戸ユネスコ世界ジオパークの位置



図 15 室戸ユネスコ世界ジオパークの地勢とジオサイト。
2016 年度以降ジオサイトを変更・新設する予定である。

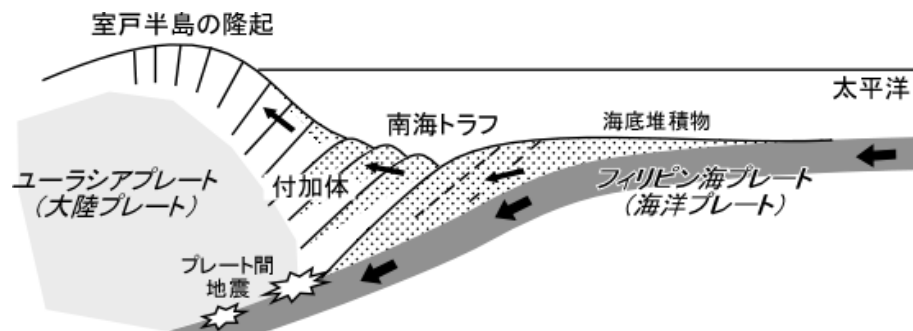


図 16 南海トラフと付加体の模式図



図 17 付加体となったタービダイト層（約 1600 万年前の海底堆積物）を示す写真（室戸岬サイト）。



図 18 海成段丘の写真（崎山台地および西山台地）。国立室戸青少年自然の家より撮影。ここでは、約 12 万年前および約 20 万年前に形成された段丘面が見られる。

室戸ユネスコ世界ジオパーク年報

2015（平成 27）年度

2015 年 5 月 18 日

編集・発行：室戸ジオパーク推進協議会

〒781-7101 高知県室戸市室戸岬町 1810-2

電話：0887-22-5161

FAX：0887-23-1618

MAIL：info@muroto-geo.jp

<http://www.muroto-geo.jp/>